

『こども食堂通信』N0.6

発行:公益社団法人北海道社会福祉士会 道央地区支部

子ども食堂訪問記⑥♪「あかはな子ども食堂」編

(札幌市西区西町南9丁目2-2 西町会館)

(こども食堂の雰囲気)

4月13日、「あかはな子ども食堂」(以下「あかはな」と省略)にお伺いしました。西区の西町会館で月1回、第2金曜日に開催されています。訪問したのは18時過ぎでしたが、8個(6人がけ)のテーブルはほぼ満席。保護者と幼児のお子さんが多かったですが、大人の利用者も見えます。会社帰りでしょうか?奥さん、お子さんと待ち合わせ、食事をして帰るお父さんの姿も見えました。

特に小学生低学年、幼児の利用が多く、周知方法を尋ねたところ、子育てサロンや保育園の保護者の口コミで、参加者が増えているそうです。

お料理は給湯室で作っているのですが、参加者の人数を考えると、調理はとても大変そうですが、調理師さんは手際よく食事を作っていました。ししゃものフライは頭から尻尾まで食べられて栄養万点。とてもおいしくいただきました。子ども達はのびのびと遊び、食事し、また遊び。笑顔で溢れていました。

(参加者の様子)

先月、発表された子ども食堂の実態調査で、「困難を抱え支援が必要と思われる子どもや世帯」がいるかどうかの設問に対し、道、札幌市の調査とも約7割が「多くいる」「ある程度いる」との結果がでていました。(北海道新聞朝刊)

鳥井さん(以下「代表」)に、現在の利用者の状況を尋ねると、『発達障害や貧困家庭のお子さんはいますが、それは障害を持つ子のお母さんが何度か通ってくるうちに話してくれてわかったこと。

また、貧困家庭のお子さんはスクールソーシャルワーカーから利用させてほしいとお話があり参加しています。あかはなは、支援を必要としている方だけを対象とする「子ども食堂」ではありません。

「子ども食堂」の捉え方はさまざまですが、あかはな子ども食堂は、子ども食堂の名づけ親である「だんだん」近藤さんの思いを踏襲しています。』とのことでした。

(これからに向けて)

あかはなでは、子ども食堂以外でも、いつも以上にのびのびと普段できない楽しい体験をしてもらおうと、夏休みや冬休みを利用して、子供たちに季節感ある体験教室を行っており、今夏の体験教室は流しそうめんの予定だそうです。回覧版にて周知するため、子ども食堂を利用していない親子も参加できます。

代表は、C l o w nでゆおさんとしてパフォーマンス活動も行っており、この日も高校の放送部員が取材にきていました。代表は「子ども食堂」という枠にとらわれることなく子ども達にさまざまな人達と触れ合うなかで色々な体験を重ねてほしいと活動されています。会場の広さや運営費などの課題はありますが、代表には、「これからの構想」が色々あるようです。他の子ども食堂との連携も深めながらの代表の活動は、今後も大変楽しみです。

北海道社会福祉士会道央地区支部から

今回で6カ所目の訪問となりました。代表から「社会福祉士は何をしたいのですか」の問いかけ、今までお伺いした方の中にも、同じ疑問をお持ちの方もいらっしゃると思います。

社会福祉士は、平成元年にスタートした相談援助の国家資格です。社会福祉士は、医師や弁護士のように、業務独占(資格者にしかできない仕事)ではないため、大多数は、社会福祉施設や病院、地域包括支援センター等に勤務しています。主に相談援助業務を行い、援助者の生活上の相談や自立した生活を送るための支援、援助計画の作成、必要な公的手続き代行や、支援の情報提供を行っています。

1度や2度、食堂へ通っただけで、お手伝いにつながるとは思いませんが、会員はさまざまな場所に勤務しており、司法関係のネットワークを持っているものもおります。何か困ったこと疑問に感じたことがあれば連絡をいただくと皆さんと一緒に支援の方法を見つけることができると思います。また、道央地区支部は、石狩・後志・空知振興局の範囲となり、札幌市以外の会員もいます。今後は、札幌市以外の子ども食堂の取組もご紹介できたらと思っています。来月以降も、子ども食堂さんへの訪問は続けながら、私達ができることを会員一堂考えていきたいと思っています。突然お邪魔することもありますがお互いにはよろしく願いいたします。